

# SPIE 2016 エジンバラ報告

家 正則

〈国立天文台 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1〉

天体望遠鏡と観測装置に関して2年ごとに開催されている国際光工学会のシンポジウム SPIE2016 Astronomical Telescopes+Instrumentation が、2016年6月25日-7月1日に、EU離脱を決めたばかりの英国エジンバラ国際会議場で開催された。SPIE2016では、「宇宙望遠鏡と観測装置：可視—ミリ波」, 「宇宙望遠鏡と観測装置：紫外—Iガンマ線」, 「地上望遠鏡VI」, 「光赤外干渉計V」, 「地上望遠鏡観測装置VI」, 「補償光学V」, 「観測所運用VI」, 「システムエンジニアリングVI」, 「最新光工学技術」, 「ソフトウェアIV」, 「ミリ波/サブミリ波VIII」, 「検出器VII」の合計12のコンファレンスが並行して開催され、発表論文数2,598, 参加者数2,700名はいずれも過去最高であった。内訳は北米48%, 欧州35%, アジア11%で、日本からの参加者数は127名であった。

今回は、全体組織委員長 Colin Cunningham (英国) と家正則 (日本), 副組織委員長 Suzanne Ramsay (ESO), Allison Barto (米国) で全体企画を練ったが、基本的に2008年のSPIE以来、そのコンファレンス構成は変わっていない。

全体企画講演としては Subaru/PFS と宇宙論 (村山 斉), 重力波検出 (M. Hendry), 初代銀河探査 (R. Ellis), 彗星着地ロゼッタ計画 (M. Grady), 次世代望遠鏡 (G. Helou), LOFAR/SKA (R. Morganti), 系外惑星探査 (A. M. Lagrange), LSST (A. Connolly) の計8講演が聴衆を集めた。

今回の SPIE 2018 はテキサス州オースティンでの開催が決まっており、慣例で現副組織委員長が組織委員長を引き継ぐ。コンファレンスチェアが集まり、今回のシンポジウムの反省点・改善案を議論し、次回以降についての意見交換を行った。ど

のコンファレンスも論文数が増え会期内のプログラム編成に苦労が見える。ポスター論文の展示時間が限られていたことも今後の課題である。ITの発展を活かした、論文のオンラインビューや検索が可能のようにさらなる工夫の要望もあった。この場では、2020年の会議を日本に招致したい旨、再度家から提案した。これは、北米と欧州での交互開催のルーチンを抜け、開催候補地としてアジアやオーストラリアも検討することを提案したものである。2008年にも家から同様に2012年のSPIEの日本招致提案を行い、歓迎の意向が表明されたものの、直後のリーマンショックのあおりを受け、実現しなかった経緯がある。

展示ブースでは関連メーカーの出展に加え、TMT, E-ELTなどの展示が目をついた。またスコットランドのニュートンとも呼ばれるジェームス・グレゴリーの業績についての公開講演や、市内の映画館で特別に上映された、未来の月面ヘリウム採取プラントで働く主人公を描いたSF映画のイベントなどにも多くの参加者が集まった。

サッカー観戦で騒がしいパブの中からベランダへ出て、旧友と語る機会があったが、外は22時でもまだ明るいもののジャケットだけでは肌寒いほどだった。

8月1日には国際会議等の誘致強化を目指す日本政府観光局から MICE アンバサダーに認証され、SPIE ASTRO 2020の日本開催への支援を戴いている。本報告書執筆時点では横浜が有力候補として残っている。初のアジア開催となる SPIE ASTRO 2020 が日本開催に決まった暁には、是非学会としてご支援をお願いしたい。



エジンバラ城.



女性天文学者の集い.



初日の全体企画終了後（左から村山齊, Martin Hendry, Collin Cunningham, 家正則, Eugene Arthurs）.



TMT 展示ブース.



全体企画講演に聴き入る参加者.

Japan Conference Ambassador

お問い合わせ 観光庁

### MICEアンバサダー一覧

**2016** 08.01 認定

MENU

- 2016  
8月1日認定  
3月3日認定
- 2015
- 2014

**家正則** (いゑ まさのり)

国立天文台 名譽教授、ハワイ大学研究公社常勤職員  
協会研次大学院大学 名譽教授  
TMT国際天文台評議員会日本代表

MICE アンバサダー 2016 ホームページ.